

2010年4月10日勉強会議事録

課題本 福澤諭吉『文明論之概略』

発表者：石堂・中山

出席者：嶋田・安達・石堂・福崎・中山

記録者：久富

六章続き

- 福澤と漱石を対比させて現代日本を考える
 - ・ 当時の儒教思想を捨てられるか
 - ・ 現代ですら西洋に入りきれていないと思う。福澤はどういうことを目指していたのか。
福澤の開化・・・内面から⇒この理論は現代の日本でも当てはめられる
⇒現代の中国にも当てはめられるのでは
 - ・ まず、中国の政治システムや文化を知らないといけないのでは。
 - ・ 中国独特の思想、中華思想はどうなるだろうか。
 - ・ 資本主義になれば、中国は内面的・思想的にはどうなるか。
 - ┌ 外資に依存し影響されるのか
 - ├ 中華思想と現在の発展が融合して中華思想が強化されるのか
 - └ 日本の郵政民営化状態になるのでは⇒搾取されている

- 現代日本で開化は可能か
 - ・ 内面的にも西洋化することは成功していない。
 - ・ ベネディクト「菊と刀」にあるように、日本は日本的に独自に開化した。
 - ・ 西洋的な合理的な理論考察が伝統的にも存在していた・・・船場の商人など
 - ・ 統治者と非統治者がはっきりしていた。士農工商の商人は軽視されていたが金を持っており、独自にマーケットを構築していた。それをさらに発展・応用されたのが幕末。

- 合理的について
 - ・ 単なる手段として用いるのか、合理的であることを価値として捉えるのか。
 - ・ 船場商人の考え方・・・無駄を省くことと合理的とは違うもの。
何か利益を上げるために合理的であらねばならぬ。

- 歴史から学ぶこと
 - ・ 福澤の言う開化は不可能では。仮にこれが可能なら世界中がグローバル化するのでは。
 - ・ 10章の特異性論
 - ・・・①この書自体が“時刻の独立”が目的として書かれた。他章はおまけ。
 - ・・・②この章は先行する章から浮き上がっている。
 - ・・・③自国の独立はどうでもよい命題だが、当時の日本に急務であるため入った

- 日本的なものは捨てられるか
 - ・ 福澤は捨てられることが可能であるという前提で考えているのでは。
- 現代の日本は捨てられているのか。文明国と言えるか。
 - ・ 外面的・システマ的には文明国と言える。内面的には思想も含めてカオス状態。
 - ・ 「ごちゃまぜなのが日本」という官僚もいる。開き直りでは。
 - ・ 「日本とは何か」・・・ハンチントンが日本文明圏に分類している。

七章

- 合理的な力で全てに名前を与え、理解可能なものにする
 - ・・・恐怖も崇拜もなくなる⇒共感できない。不可能だと思う。
 - ・ 精神が肉体へとつながっている。人間の行動で合理的なものは少ない。
⇒ファーストフードチェーンの松屋・すき家・吉野家・なか卯のどこに行くか…
感情的・無意識で動いている。
 - ・ 福澤は「理性で動かなければならない」⇒当時の批判をするために言っているのかも。
 - ・ いけにえ・ポトラッチは一見すると意味のないことに見えるが、合理的だとも言える。
 - ・ 貨幣はあたかも価値のあるように見えるが、実態は紙切れだとも言える。
- 「理屈で暴挙を抑える勢いがあれば身体の内につながる」
 - ・ 福澤は腕力は嫌だと言っているが、この時代生き残るために国力を上げていけば結局のところ腕力の戦いになるのでは。
- 「智」と「徳」どちらが中心なのか
 - ・ 福澤はどちらもないがしろにはしていないが、当時必要だったものが智ではないか。
 - ・ 智慧があってはじめて、徳を身につけることができると言っているものもある。
- 現代では智慧が先行して、徳義が遅れているのでは
 - ・ 社会一般を観たとき、逆に徳ではなく智が不足しているように感じる。
 - ・ 家庭で徳が行われていないのでは。
 - ・ 選挙などは、智慧があればもっと活発に行われているのでは。
- 徳義とは何か
 - ・ 智慧は智慧だけだが、徳義・徳○などという言葉が本文中にたくさん出てくる。
 - ・ この時代の知識人は「徳」の何たるかをわかっていたので、理解できるのでは。
現代と違い、「徳」が細分化・体系化されていたのかもしれない。
 - ・ もはやわれわれの生きる現代では「徳」の意味がわからなくなっている

- 智徳の具体例は
 - ・ 律儀の現代での使われ方は合っている??
 - ┌ 自分の行動を律するものが智徳
 - └ 他人との行動の中で得られるものが智徳
 - ・ 智恵と知識も混合している?

- 中国について
 - ・ しゃべると良い人なのにどうして国はああなのか
⇒個人の特徴を社会・国家に置き換えられるか。
福田首相の中国はお友達発言・・・個人のそのときの感情と国家の首相としての立場を混同している気がした。
 - ・ 国家の上層部は戦争体験を共有しているが、戦争を知らない世代は交流の可能性があるのでは。
 - ・ 中国の場合・・・共産党は国民党に勝ったという前提で正統性を成り立たせているため、反日の立場をとっている。⇒国際社会は利害関係が前提
⇒果たして日本の政治家はそれをわかっているのか・・・

第八章

- 帝国主義の意味合いとは
帝国・・・横に広がっていくイメージ。絶対主義のことでは。

- P195 “ゲルマンの野蛮に胚胎せり”
ローマ・・・一族の独立のみで一国ではない。ゲルマンによってローマの自由が消えた。

第九章

- ・ 福澤は政治に民意を反映させるのをよしとしていたのか・・・
- ・ 本書を読んだ人間が一身独立の気風が生まれればという願いがあったのでは。

十章

- これまで一身独立していた時期はあったのか
 - ・ 第二次世界大戦中は一身独立していたのではないか
 - ・ 走っている時は一身独立している。だが負けてしまうとすべてを悲観的に捉えてしまう傾向がある。後の評価が影響してくる。
 - ・ 一身独立ができていた状態はある意味異常な状態では。
一身独立⇒自分で智恵をつけて自分で選択できる状態とすると・・・
⇒アメリカはできていないと言える。(cf)イラク戦争時の好戦ムード

○外的圧力がないと一身独立は起こり得ない？

- ・例えば、北朝鮮が攻めてきたら一身独立することができるのではないかな。
⇒しかしその危機を感じる人と感じない人がいるのでは。
- ・危機的状況にならないと一身独立の気風にはならない
⇒しかしこの状況は国家にとっては危険な状態。
- ・むしろ国民一人一人が一身独立している状態はヤバイのでは・・・
- ・結局は自分たちの中で考えることが一身独立している状態なのではないかな。
「日本とは何か」「自分は何者なのか」など、常に向き合って考える状態ではないかな。

○現代の日本人は危機的状況に陥っても一身独立できないのでは

- ・今の政治家は自分の利権のことしか考えていない。政治家として国のことを考えていいように思える。
- ・日本は核を持たないことで攻撃されない・世界から尊敬されていると主張する人がいる
⇒高坂さんの言うように、日本人は外交ではレトリックを駆使している。
- ・アメリカに護ってもらえるから問題はないと違和感なく考えられる人は、自分が国を護ろうという考えにならないのが不思議。
- ・10年後の国益を見据えてリーダーシップをとる政治家がいない。

(cf) 福田首相のお友達外交

- ・村山談話になぜ引きずられねばならないのか。
⇒過去に談話が成立した以上、踏襲していかなければならない。また、その問題に決着がついていることも踏まえた態度をとることが重要。問題は、決着がついた問題であるにもかかわらず、それに引きずられて毅然とした態度がとれないこと。
- ・靖国問題・・・この問題を外交上の弱点としてしまったことが最大の問題であり、中曽根元首相は非難されるべき。
⇒中国の顔色を伺うような態度をしなければよいのでは。
公的に亡くなった方々に対して首相が公的に手を合わせられないのはおかしいのでは。
- ・外交と内政を切り離して考えることが必要。

○日本の軍備拡張について

- ・現在は各国が緊張状態である。
- ・過去は大規模な軍備を保持している国が権勢を握っていたが、現在では軍備は外交上のカードとして扱われている。経済力も同様。
- ・軍備拡張を唱えるのもよいが、10年後の状況等を見据えて考えることも必要。単に軍備を拡張していけば日本が世界から孤立していくことは必至。